

平成29年度横浜国立大学法科大学院法学未修者コースA日程入学試験
小論文試験問題（試験時間90分）

問題1（50点）

次の資料を読み、資料1の著者は、なぜ「ディープラーニング」が人工知能研究におけるブレークスルー研究であると考えたのかについて説明した上で、あなたは、人工知能は人間社会の未来にとってどのような可能性と課題をもたらすと考えるか、適宜、具体例を交えて、理由を示しつつ論じなさい。（800字以内）

(注)著作権法等の配慮により問題文は割愛します。
なお、問題文は、次の文献から引用しております。

- ・「人工知能が社会を大変革する日ーディープラーニングは最大の難関を突破したー」
松尾豊（文藝春秋、2016年5月号）
※出題の都合上、一部表記等を改めた部分がある。
- ・「出典：インテリジェント化が加速する ICT の未来像に関する研究会 報告書 2015
（平成27年6月）」
13頁1行目～14頁14行目
※出題の都合上、一部表記等を改めた部分がある。

問題2（50点）

国際社会は目下、戦後最大の難民発生という課題に直面している。この未曾有の人道危機に際して、日本としてどのような対応をとることが適切と考えるか、後掲資料を適宜参照・引用の上、自らの見解を論じなさい（800字以内）。

(注)著作権法等の配慮により問題文は割愛します。
なお、問題文は、次の文献から引用しております。

- ・「難民最多の6530万人 昨年580万人増 シリア内戦など影響」
日本経済新聞、2016年6月20日夕刊
- ・「難民申請、大幅増加5011人 今年上期 認定4人のみ」
朝日新聞デジタル、2016年8月11日
- ・アムネスティ日本支部声明「日本：難民の保護に向けて、日本はさらなる役割を担うべき」
2016年9月26日、http://www.amnesty.or.jp/news/2016/0926_6345.html
- ・滝澤三郎「シリア危機、『開国』の好機に」日本経済新聞、2015年10月30日朝刊
- ・UNHCR Population Statistics Database (<http://popstats.unhcr.org>)
- ・法務省入国管理局「平成27年における難民認定者数等について」別表1
- ・外務省「国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の概要」
- ・木村恭子「『日本も難民を受け入れるべきだ』64%」日本経済新聞電子版、2015年9月17日

※出題の都合上、一部表記等を改めた部分がある。